



2009年5月24日

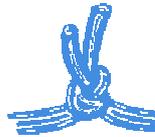
カブ隊基本訓練（団ハウス）

近頃のカブ隊は、リーダーがスカウト技能を知らないの、基本訓練の指導ができなくて悩んでいるとの話があり、ベンチャー隊長が一肌脱いで、基本訓練の指導をすることになりました。デンコーチとしてボーイ隊のWくんが参加してくれました。



まず始めは、O隊長によるソングの練習。Iさんが持参してくれたCDをかけながら、君が代、連盟歌、光の路（みち）を繰り返して歌いました。

次にはK隊長がロープを指導。本結び、ひとえつぎ、もやい結び... しばらくやっていたので、だいぶ忘れていたようです。



その後は基本動作。整列・気をつけ・休め・敬礼・仲良しの輪...終わるころにはずいぶん揃ってきました。



最後に、いつも使わせていただいている、団ハウスとトイレの掃除をしました。しばらくの話し合いをして、ようやく分担が決定。みんな意外に？まじめに取り組んだので、とてもきれいになりました！

2009年5月31日

ラブリバー、いもの苗植え、くま集会

近頃雨がちな日々が続いていましたが、予定通り実施されました。

8時30分団ハウス集会で、8時45分多摩高裏の河川敷に集合だったのですが、団ハウスへの集まりが悪く、出発したのは8時40分ごろ。5分から10分遅れとなりました。



来年はあと10分か15分集合を早めましょう！

一般ゴミ、空き缶・ペットボトル、空き瓶、小物金属に分けて拾いました。例年通り、東名高速の下までで、10時過ぎには完了しました。

それから団ハウス近くの畑へ移動。

K副団委員長さんの指導の下、さつまいもの苗植えをしました。

- ・うねのとがっているところを平らにならして
- ・真ん中に溝を掘って
- ・苗を30cmぐらいの間隔で並べて
- ・横から斜めの向きに植えるよう、さらに掘ってから苗を置き、土を寄せて、上からギュッと押さえていきました。

昨日までの雨で土が十分潤っているので、苗植え後の水まきは不要でした。



団ハウスに戻って解散した後、くまスカウトだけ残り「くま集会」を行ないました。

- ・ちかいとおきての確認。
- ・敬礼、スカウトサイン、握手の練習。
- ・初級レベルのロープワーク

（本結び、ひとえつぎ、8の字結び、もやい結び）ロープは先日の集会でVS隊長に教えてもらったはずですが...皆さん苦戦していました。

ロープは繰り返しやらないと身につかないので、ちゃんと復習してくださいね。

2009年6月7日

組織拡張担当者会議（新中原会館）

カブ隊の保護者SさんとKさんが、48団を代表して出席して下さいました。

お二人に、会議の内容や感想を話していただきました。

新入スカウトを増やすために、他団がどんな活動をしているかを知り、良い刺激を受けた。入団者が多い団では、チラシに工夫を凝らし、4-5月に重点的な勧誘活動（見学会など）を実施している。

また、見学に来た人へのフォローはとても大切で、電話番号を教えもらい、その人の担当を決めて、半年から1年間は「つかずはなれず」の接触を保ち続けることが必要なのだとか。

組織拡張の活動は、マンネリ化してしまうとたんに入団者が来なくなってしまふ...という話を聞き、48団でも、この問題は本当に切実だと痛感した。

2009年6月13日

指導者救急法講習会（川崎市青少年の家）

カブ隊のWリーダーと、ローバー隊のMNSスカウトの2名が参加しました。Wリーダーの感想です。

安全研修の内容はAEDの使い方、三角巾の使い方、またけがした人の搬送方法。AEDの使い方は難しくないが、少しドキドキする。三角巾を包帯として使うのはかなり難しい。人の頭、腕や足に結んでみたけど、なかなかきれいにできなかった。また、人の搬送は自分の力不足と感じました。とてもいい経験でした。



2009年6月14日

安全担当者研修会（川崎市青少年の家）

内容

1. スカウティングに関わる安全とは
2. 指導者の責任と安全の確保
3. スカウティングと安全教育
4. 野外活動と安全管理
5. 事故発生後の処理

Hボーイ隊長と、Iさん(母)、Nさん(父)の3名が参加しました。

<安全の3原則>

- ・安全はすべてに優先する
- ・自分の安全は自分で守る
- ・ルールを守る



当たり前なんだけど、スカウトたちに浸透させるのは大変かも... ボーイ隊の場合、「自分の安全は自分で守る」のが基本です。リーダーは班長・次長を指導するだけで、基本的には班単位での活動です。

安全のために「ルール」を決めているのですから、集合と言われたら、一度ですぐに集合する、などの基本ルールが守れないようでしたら、ボーイ隊の活動には参加できません！

<ハインリッヒの法則>

会社で度々勉強させられます。

重大事故の影には、中度の事故、軽微な問題が多数隠れています。軽微な問題でも起こらないように手を打っていくと、重大な問題は発生しにくくなる。

48団の中でもヒヤリハットの抽出などを行い、より安全に活動できるようにしたいですね。

ボーイスカウトのリーダーは、ボランティアとはいえ、法的責任を負う可能性がある。でも、加盟登録料の中にボーイスカウト賠償責任保険が含まれており、指導者に法律上の損害賠償責任がある場合は、それで補うことができるというので、少し安心しました。故意の場合や、天災の場合には対象外とのことですが...

県連の災害見舞金や、日連の傷害共済のことは知っていたけど、賠償責任保険は知りませんでした。

また、事故発生時、リーダーの車で搬送するのは望ましくないとのこと。

- ・通常の状態ではないときに車を運転すると、二次災害が起こる恐れが大きい。
 - ・救急車が来るのを待つ時間より、病院に行ったときに待たされる時間の方が長いことが多い。
- ...気をつけます。

??? お知らせ ???

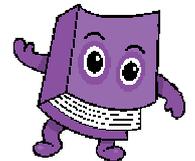
講習会参加に必要なテキスト「救急法」と「ボーイスカウト安全入門」を各2冊、団の備品として 育成会会計で購入しました。

ボーイスカウトに関わる全ての方に知っていただきたい、重要な内容が記されています。

団ハウスに置いておきますので、随時ご覧ください。持ち出しもOKですが、読み終わったら必ず元の場所に戻してくださいね。

みんなで大切に使いましょう！

その後、6時から溝の口の「てくのかわさき」にて ボーイ隊のラウンドテーブル（隊長会議、円卓会議）があり、参加してきました。ボーイスカウトを始めた、バーデンパウエルさんが書いた「スカウティング・フォア・ボーイズ」をベースに、話し合いをしました。スカウトたちに学んでもらう前に、まずリーダーが勉強！



「野外活動」「騎士道」「スカウトになるには」の3項目について。また、ちかいのなかに出てくる「名誉」や、スローガン「日々の善行」ということばについて考えました。

カブ隊のさだめ

5. 「カブスカウトはすすんでよいことをします」

ビーバー隊のきまり

3. 「ビーバースカウトはよいことをします」

はじめは意識して、良いことをすればほめられると思ったり、ほめてもらうために良いことをすることもあるでしょう。しかし普段からよいことをするように心がけて、それが自然にできるようになれば、本物の善行となるでしょう。善行の機会は身の回りにたくさんあります。決してむずかしく考えなくてもよいのです。人のために何か力になってあげること。他の人に対して心配りや思いやりの心をもつこと。誰とでも笑顔で接し、まごごろを持って語りかけること。ためらいなく席をゆずること。気持ちよくあいさつをすることなど、いつでも、どこでも、誰でもできることから実行しましょう。

「スカウティング」2009年7月号より

今号は研修や会議の報告で、盛りだくさんな内容になりました。活動の報告だけでなく、ボーイスカウトにまつわるいろいろな話題も載せることができると思っています。(暫定的編集人 MN)